神奈川県作業療法士会
設立 40 周年記念誌

一般社団法人　神奈川県作業療法士会

目 次

１．設立 40 周年記念のご挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
一般社団法人神奈川県作業療法士会会長

２．40 周年にあたって ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
神奈川県作業療法士会歴代会長
日本作業療法士協会会長
神奈川県理学療法士会会長
神奈川県言語聴覚士会会長
神奈川県病院協会会長
神奈川県看護協会会長

３．40 周年記念ロゴマークに関して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

４．神奈川県作業療法士会の歴史 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

５．神奈川県作業療法士会の今を知る ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
理事（一部）より
会員の声

６．神奈川県作業療法士会の未来 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

７．神奈川県作業療法士会白書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３

８．あとがき ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

設立 40 周年記念　ご挨拶

一般社団法人神奈川県作業療法士会会長
神保武則

40 周年を迎えた一般社団法人神奈川県作業療法士会。この設立に携わった皆々様にまずは感謝と敬意を表したいと思います。本当にありがとうございます。そして、設立 40 周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。

作業療法を愛する神奈川県の作業療法士たちにより産声を上げた神奈川県作業療法士会は、この 40 年間で約 2500 人の会員数を誇る規模に成長致しました。これは、全国的にも充実した会員数を維持する組織を意味しており、いざという時の即戦力や促進力に繋がるまでになりました。これも先人たちの苦労や努力があったからこそであり、この恩恵を受け継ぎ、しっかりと県内の作業療法士たちの希望を後押しできるよう、更なる強靭な組織として、これからも成長していきたいと節に感じるところであります。

1964 年に日本作業療法士協会が発足し、2024 年で 60 周年を迎えます。この発起人の一人である佐藤馨先生が、1981 年に神奈川県作業療法士会の初代会長となり設立されました。そうとは知らず、私は、アメリカのニューヨーク州から帰国後、1991 年に国立療養所箱根病院付属リハビリテーション学院に入学し、初代会長の佐藤馨先生の優しい⁉授業を受けておりました。当時はクラスの殆どが女性で、私は 20 人クラスで唯一の男子生徒。何もしなくても目立つ存在。故に下手なレポートや不出来な試験でも佐藤馨先生は合格点を付けて下さいました。“先生が OT になった時代は、日本に作業療法がなかった時代。当時の作業療法教育は全てアメリカ講師による英語の授業だったのよ”と、授業中に話していたことを思い出します。

さて、時も過ぎ、私が作業療法士になってから 25 年以上が経ちます。神奈川県作業療法士会に携わってからは、沢山の OT 仲間ができました。当初入会したばかりの私は、地域リハビリテーション部の活動によく参加させられました。今でも思い出すのが、某温泉病院の ADL 室で「入浴動作を撮影する」ということでいきなり　“はい神保君服脱いで！”と最初のモデルデビューは裸体を晒す入浴シーンであったことを覚えています。あのビデオは一体どこにあるのか未だに謎のままです。そして、2000 年のミレニアムイヤーには、この横浜で第 34 回日本作業療法学会が開催され、初めての国際演題（英語口述）発表の企画が作られた時でもあります。実は私の初めての学会発表がこの国際演題発表でした。学会前に札幌市で WFOT の第 24 回代表者会議があり、その流れで多くの WFOT 代表者たちがこの横浜に集結。当時の WFOT 会長であった Carolyn Webster を居酒屋に誘い、集結した日本の OT 十数人が適当な英語と酔っぱらった日本語をゴチャマゼにしながら“ワイワイガヤガヤ”と美酒を酌み交わしたことは今でも懐かしい思い出です。そして、2014 年にはアジア国で初めての開催となる第 16 回 WFOT 大会が横浜で開催されました。当県士会の皆や沢山の有志の方々が集い大成功を収めたことは、未だに新しい記憶です。実に、この神奈川県作業療法士会は、素晴らしい歴史の数々を支えていることを改めて知ることができます。これら 40 年間分のアルバムを 1 ページずつ捲る思いを皆で共有できることは私としても大変うれしく思う次第であります。

最後に、未来の作業療法士たちへこの歴史を繋げられるよう、是非とも、この先の 50 周年、さらには 60 周年を会員の皆でお祝いできるよう力を合わせていきましょう。

これからの一般社団法人神奈川県作業療法士会の更なる発展と会員の皆さまの健康を祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

神奈川県作業療法士会 40 周年を迎えて

初代会長
佐藤　馨

1．はじめに

神奈川県作業療法士会が発足したのは 1981 年 11 月 17 日の事です。日本作業療法士協会本部がこの年に法人化となり、今までのブロック制が廃止され各都道府県単位の作業療法士会が誕生した為です。1981 年 7 月に解散した中部支部が発足したのは 1971 年 6 月 20 日でした。当時中部支部は、神奈川県、静岡県、山梨県、長野県の 4 県が常に一体となり種々の研修活動、学校建設、リハビリテーションの促進活動など諸問題に携わってきた歴史の流れがありました。

２．古代史へ

医学の流れを語るに付け、古代の資料から「エジプト」の考古学資料が参考にされます「ミイラ」発見にその痕跡が残されていたとの事です。骨格の変形や何らかの形での病気の形態を有していたと言われています。我が国では縄文時代に疾病に関する形態が残されていたとの事です。

私の記憶では、第二次世界大戦後多くの軍人の疾病が今日の医療の流れを変化させ、第 3 の医学とも言われたリハビリテーションの促進が強まったと思います。

私は世界 40 カ国以上の国々への旅の中で、自然にその国の病院を訪れ、当時の現状を見てきました。中国、台湾、フィリピン、エジプト、イギリス等々。

「エジプト」のサダト大統領が日本に来日し、その案内役を務めた体験がありました。当時「エジプト」は王政から大統領制に変わり、色々と改革運動の中で医療の変革を求め日本に来日したのです。

当時出来て日数も浅い神奈川県のリハビリテーション病院を訪れました。私の拙い英語能力で案内した思い出は、今でも鮮明に記憶に刻まれています。残念な事は、来日した翌年「サダト大統領」は暗殺されてしまったのです。

３.リハビリテーション

リハビリテーション(略してリハ)の言葉の歴史の由来は、1844 年ドイツのフォン・ボスによる「更生の余地がある限り彼の可能性の最高水準まで更生援助が行われなければならない。失った身体機能の回復は自らなすべきであり、新たな生活が再建できるように、人間的尊厳を自己の中に感じるに至るまで、精神的にも回復しなければならない」と述べています。

1982 年、国連障害者世界行動計画において、リハビリテーションについて定義されています。世界保健機関では「健康とは、完全な肉体的、精神的、及び社会的福祉の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と定義しています。

以上が作業療法士誕生の流れです。

参 考 文 献

1)澤村誠士(編)：日本リハビリテーション病院・施設協会（第 1 版），青海社，2004 年 1 月
2)中村隆一(編)：入門リハビリテーション概論(第 4 版)，医歯薬出版，2001 年 3 月
3)渡辺英夫(編)：リハビリテ―ション診療必携(第 1 版)，医歯薬出版，1982 年 1 月

40 周年に向けて

第 3 代会長
渡邉愼一

神奈川県作業療法士会は、社団法人日本作業療法士協会の下部組織として 1981（昭和 56）年 11 月に会員数 77 名（勤務施設数 27 施設）でスタートしました。初代会長は佐藤馨氏、2 代目は長谷川元氏、私は 3 代目として 2007（平成 19）年 4 月～2015 年 5 月の間、会長を務めました。任期中、もっとも印象深いことは、2009（平成 21）年 4 月の第 29 回神奈川県作業療法士会総会での県士会の解散と一般社団法人神奈川県作業療法士会の設立です。当時副会長の錠内広之氏、事務局長の澤口勇氏をはじめとした理事、監事、事務局員、そして法人化対策推進委員長として誰よりも最前線で労を執られた鈴木久義氏と喜びを分かち合い、同時に目標の達成に安堵したことを思い出します。法人化により社会的な責任を担うべき団体としての新たな歩みが始まりました。

この 40 年間の作業療法士を取り巻く我が国の状況を振り返ると、少子・高齢社会に備えるために医療・保健・福祉サービスの提供体制を整備・拡充した期間といえます。1982（昭和 57）年制定の老人保健法で市町村による保健事業が始まり、1986（昭和 61）年には病院と在宅をつなぐ中間施設として老人保健施設が創設されました。1990（平成 2）年には市町村・都道府県の老人保健福祉計画の策定義務化などの老人福祉法等福祉関係 8 法の改正が行われ、これらを背景に作業療法士の需要計画が見直され、作業療法士の養成が促進されました。2000（平成 12）年の介護保険制度では、老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、医療保険では回復期リハビリテーション病棟、2006（平成 18）年の障害者自立支援法ではさまざまな生活を支援するサービスの提供が始まり、2014（平成 26）年により医療介護総合確保推進法で病床の機能の分化・連携が推進されるなど、「地域包括ケア・地域共生社会」を可能にする体制整備が進むなかで、作業療法士の活躍の場が飛躍的に増加しました。地域包括ケアでは地域での支えあいの基本を自助・共助においており、住民の自立を支援することが必要とされ、作業療法士の役割は一層重要なものになります。

作業療法士の視点は障害を持つ方々の疾病や障害のみでなく、日常の生活に向けられ、かれらの自立を支援し、生活を健康で豊かなものになるように支えることにあります。一人として同じでない生活を対象とするため、作業療法士の臨床では原因が明白で教科書通りの対応でうまくいくことよりも、原因がわからないけれどできるだけ正確に対処しなくてはならないことが多く、これがやりがいの依拠にもなっています。臨床で困っていることは教科書には記載されていない今日的な課題です。臨床で体験したことを言葉にして対処の方法を検討・共有し、「臨床の知」を積み上げていくことがわれわれの使命でもあります。今後も神奈川県作業療法士会の発展とともに、作業療法士が医療・保健・福祉の分野で活躍することを期待しています。

神奈川県作業療法士会 40 周年に寄せて

第 4 代会長
錠内広之

まずは 40 周年おめでとうございます。

神奈川県作業療法士会（以下、県士会）は 1981 年 11 月 17 日に発足してから、正確には 2021 年末で 40 歳となりました。私はその歴史の中で理事としては 2002 年の事務局長就任より関わりだしています。その後副会長、会長を経て現在も監事としての役割を担っています。つまり理事として 20 年、学術部員や作業療法推進月間実行委員長の時代も含めると、県士会の歴史の半分以上に関わっている事になります。私自身この文章を書きながら改めて驚いている次第です。職場も卒業後から一度も変わっていないので、この忍耐力？継続性？については誇りにしたいと思います。

さて、この場をお借りしまして県士会の歴史についてお話させていただきます。前述したように県士会は 1981 年より 77 名の会員を以って発足しました。全国組織である日本作業療法士協会は 1966 年の 9 月に発足し、地方組織としては 1976 年の岡山県作業療法士会を皮切りに当県士会は全国で 10 番目位に発足しています。

会員数は少しずつ増えていき、それに伴い事業も拡大していきます。部・委員会は発足当初は学術部だけで、その後広報部と現在の福利部に該当する部が加わりました。これらより県士会の目的は恐らく、OT として知識の研鑽については当然ですが、会員同志、横の繋がりを特に大切にしていた組織だったのだろうと推察できます。手書きの広報誌（ニュース）では今では考えられないような、かなり詳細なプライベートが掲載されていましたが、会員が少なかったからこそ小回りの利く、お互いの顔が見える組織だったことが伺い知れます。

それからさらに会員が増加していく中で、または事業規模が拡大していく中で手弁当での事務局運営が破綻してきました。神奈川県総合リハビリテーション病院、川崎中央病院、横浜市総合リハビリテーションセンター、北里大学にお願いして各年代で事務局機能を設置していましたが、それも難しくなってきたのです。その為、会費の値上げをしながら 2005 年に現在の事務所を開設するに至りました。これにより事務局業務だけでなく、事務所で理事会や委員会も開催できるようになりました。

このようにして現在の県士会の基盤が築かれてきましたが、県士会は今、所帯が大きくなったことでの新たな課題に直面しています。引き続き、会員の皆様のご協力のもと、一つ一つの課題を整理していきたいと考えます。

最後になりますが、県士会の長い歴史において、会員の皆様をはじめ理事役員の今までの精力的な取り組みに敬意を表します。その中では、19 年という長期に渡り会長を担っていただいた長谷川元氏、様々な役割を歴任しながら我々理事役員の相談役的な立場で長く県士会を支えて下さった浅井憲義氏、機知に富んだ施策を多く提案して下さった元副会長の中西浩司氏など、惜しまれながらこの世を去った仲間の作業療法士にも併せて深い敬意を表します。

40 周年を祝して

一般社団法人日本作業療法士協会
会長　中村春基

設立 40 周年、心からお祝い致します。これまで貴会を導いてこられた歴代会長、役員、会員の皆様の労に心から敬意を表します。また、COVID-19 禍で、神奈川県民の健康と幸福に尽力されている貴士会員の皆様に心から御礼申し上げます。

さて、神奈川県とのつながりは、リハ学生時代（1976 年）の小児の総合実習で、川崎市の通園施設くすのき園でご指導を受けました。宿泊先は東京都清瀬市の国立療養所東京病院の寮でしたので、武蔵野線、南部線を乗り継いで川崎駅まで通っていました。毎日、6 時前には清瀬の寮を出ていたように記憶しています。

就職（1977 年）は兵庫県立リハビリテーションセンターでしたので、神奈川県立リハビリテーションセンターの活躍には大いに刺激を受けました。また、教職時代も同センターで実習をお受けいただきました。故土嶋先生、谷口先生、玉垣先生等々大変お世話になりました。改めて感謝申し上げます。

さて、神奈川県といえば、2014 年の WFOT 横浜大会は忘れることができません。ガラディナーや日本文化の紹介等の企画、運営で大変お世話になりました。展示会場に上皇上皇后陛下がお見えになり、皆様と共に緊張の中で応接したことなど懐かしい思い出です。また、第 34 回学会（2000 年）は、故長谷川元大会長の下、「作業療法-新世紀へのプログラム」で開催されましたが、想定以上の参加者で、抄録が不足し急遽コピーで急場をしのがれていました。確か懇親会はクルージングが用意され、当時会長の矢谷先生と懇談したのを覚えています。また、故長谷川元先生には、弱小団体（金もない、人もいない、コネもない）の中で、1974 年、念願の保険収載に尽力いただきました。（これが起点となり今があります。）感謝の言葉しかありません。このように、貴士会には協会として、また、私的にも言い尽くせない思い出があります。本当に感謝、感謝です。

ご承知の通り協会は 2023 年度に大幅な組織改編を行います。地域社会振興部の設置、教育コンソーシアムの設置、MTDLP の更なる普及。2025 年度からは、協会員=士会員、新生涯研修制度の運用等も予定されています。いずれの取り組みも、士会と一体となった運営が益々必要になると存じます。組織率など様々な課題を抱えておりますが、50 周年、60 周年が明るい作業療法となるよう共に取り組んで参りましょう。

最後に、先輩諸氏が築かれてきた貴士会の団結力、先見性が更に洗練され、益々の発展と繁栄を祈念しております。

創立 40 周年の祝辞

公益社団法人神奈川県理学療法士会
会長　内田賢一

一般社団法人神奈川県作業療法士会が創立 40 周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。40 年間の足跡を振り返るとともに、これからの更なる発展を目指して記念誌が発行されますことを、公益社団法人神奈川県理学療法士会を代表してお祝い申し上げます。

我が国の皆保険制度の下で、国民の保健・医療・介護・福祉の充実に向けた医療専門職である作業療法士は、リハビリテーション医療を担う理学療法士と同志であり、互いに 1966 年に我が国に誕生しました。それから 15 年が経過した 1981 年、初代会長である佐藤馨先生の強い熱意とご努力によって、貴会は誕生したと聞いております。1981 年に発足されて以来、各種研修会や講習会、学術集会等を通じて作業療法士の学術技能の研鑽と資質の向上に努められるとともに、神奈川県民の保健・医療・介護・福祉の向上に寄与されてこられました。歴代の貴会会長をはじめ、役員、そして会員の皆さまが一丸となって活動されてこられ、40 年を迎えられたこと、本当におめでとうございます。

これからの我が国の社会保障制度は、少子高齢化と人口減により、大きな変化が待ち構えています。診療報酬改定でも、明るい話が聞こえてくることはほとんどありません。しかし、作業療法を必要としている人は、神奈川県にはまだまだ数多くいらっしゃいます。専門的な能力だけでなく、知識と技術の高度化にも対応できる優れた臨床力、そして豊かな人間性を兼ね備えた医療専門職としての作業療法士は、過去を顧みても今が最も必要とされているといっても過言ではありません。作業療法を通じて、人としての尊厳を保ち、その方々の期待に応えていく姿勢は、我々理学療法士も学ばせていただくことが数多くあろうかと存じます。これからも、貴会との連携をより一層深めながら、神奈川県理学療法士会も、県民の保健・医療・介護・福祉の質の向上に努めてまいる所存です。

貴会創立 40 年という節目である 2021 年 5 月に、神保武則先生が貴会の会長に就任されました。私も、時を同じく 2021 年 6 月に本会の会長に就任いたしました。そして、神保武則会長とは、今はもう閉校してしまいましたが、国立箱根病院附属リハビリテーション学院の同窓（私が先輩）です。会長就任が同じタイミングで、しかも同窓ということは、他士会とは比較にならないくらい強いタッグを組むことができると確信しています。

最後になりますが、創立 40 周年を機に、貴会が神保武則会長の下、役員・会員が一丸となって更なる発展を遂げられますようご祈念申し上げて、お祝いの言葉とさせていただきます。

一般社団法人神奈川県作業療法士会設立 40 周年にむけて

神奈川県言語聴覚士会
会長　金井枝美

この度は神奈川県作業療法士会設立 40 周年を迎えられたこと誠におめでとうございます。

この日を迎えられましたことは、ひとえに歴代の会長をはじめ会員の皆様方の並々ならぬご尽力の賜物とお慶び申し上げます。

ひとことで 40 年と申しますが、貴会が 1981 年 11 月に設立されてから時代による社会情勢変化の激しい中、国民や県民からの貴職への期待や要求は様々な変遷がなされたと窺い知れます。現代国内情勢に伴うリハビリテーション職種の支援状況の変化および診療報酬改定等による体制の変化、昨今では新型コロナウイルス感染拡大という出口が見えず刻々と変化する脅威への対応の難しさ、また未来へ向けての検討など多くの変化や問題点を共感する次第であります。そのような中で活動を維持していくことは並大抵のことではなく貴会におかれましても多くの困難やご苦労がありましたことと拝察いたします。

貴会のご努力や工夫が様々な領域で反映され、皆様のご活躍を知る機会も多くございます。まさに貴会の「県民の健康と幸福の促進を目指す」という理念の実践と感嘆いたします。今日の良き日を迎えることになりましたことは、日々の努力と工夫の研鑽による賜物と存じます。

私たち言語聴覚士は長きにわたり貴職の皆様と医療・介護・保健・福祉・教育また地域支援の現場で協働し、連携を継続してまいりました。またそれぞれの職域現場では多くの学びをいただき誠に感謝しております。

この先の貴会の「未来」を見据えての活動を当会でも共有し、神奈川県におけるリハビリテーション三団体のひとつとして微力ながらもお手伝いすることができれば幸いです。今後とも当会、当職へのご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

末筆ながら貴会がこれからも職能を活かし、更なるご発展を遂げられることを祈念いたします。

神奈川県作業療法士会設立 40 周年によせて

公益社団法人神奈川県病院協会
会長　吉田勝明

一般社団法人神奈川県作業療法士会が設立 40 周年を迎えられますこと、心からお慶びを申し上げます。

貴会は、今日にいたるまで、国民・県民の身体や心の障害と向き合い、患者の機能の回復・向上に尽力され、また、患者家族への支援・相談にも、専門知識や技術をもって取り組まれるなど、本県の公衆衛生の普及・発展に大きく貢献されてきました。

歴代役員の皆様ならびに会員の皆様の永年にわたる、たゆまぬ御努力に、深く敬意を表します。

さて、医療を取り巻く状況は、急速に進む少子高齢化、疾病構造の変化、国民意識の変化とともに、国が進める保健医療システムや医療保険制度などの様々な改革が進む中で、本県の医師や看護師等の医療人材の不足は解消できず、喫緊の課題となっています。

適切な医療・安全で安心な暮らしの確保は国民の切実な要請であり、医療関係者としてどのように対応していくか、我々は、その使命を果たすべく努力をする必要があると考えます。

さらに、自然災害の多発、新型コロナウイルス感染症の蔓延が長期化し、患者数が、過去最多となるなど、これまでの健康の維持を継続するには、大変厳しく、課題が山積しております。外出制限や活動制限による生活の変化、食生活の変化など、国民・県民を取り巻く環境にも大きな変化をもたらしました。

人々の健康状態に寄り添う貴職に対する期待は更に高まっております。さまざまな障害に不安を抱えた患者の状態を把握し、改善に向け具体的な方法を示し、患者や、その家族の目標実現に向け、共に歩む作業療法士の皆さまの活動は大変なご苦労があると存じます。

また、多方面の領域において活躍される作業療法士は、「その人らしい」生活を身近で支える、多職種連携の軸として重要な役割を担っております。

神奈川県病院協会は、これまで以上に貴会と連携し、国民・県民に寄り添う環境を整備して、安全で質の高い医療を提供できるよう努力してまいります。

結びになりますが、神奈川県作業療法士会と、会員の皆様の益々のご活躍を心から祈念いたしまして、40 周年のお祝いの言葉といたします。

一般社団法人神奈川県作業療法士会設立 40 周年記念の祝辞

公益社団法人神奈川県看護協会
会長　長野広敬

一般社団法人神奈川県作業療法士会が設立 40 周年を迎えられたことに、心よりお祝いを申し上げます。これまでの歩みを振り返り、新しい時代へのさらなる発展と飛躍をめざし記念誌を発行されますことは、誠に意義深いことと存じます。

貴会におかれましては、設立以来、会員の皆様のたゆまぬご努力により、今日まで 40 年の長きにわたり、作業療法を通して子どもからお年寄りまで、県民の皆様の保健・医療・福祉の増進に寄与されてこられたことに、心から敬意を表します。

また、各種研修会、調査研究、地域での作業療法の普及啓発活動及び関連団体との連携交流を図るなどの事業を通して、作業療法士の学術技能の研鑽及び人格資質の陶冶に努め、積極的に魅力を伝え、リハビリテーションの専門職として高い評価を受けてこられました。

現在、我が国は超少子高齢社会に突入しており、地域包括ケアシステムを推進しています。その中において、高齢者医療・福祉の現場・地域における作業療法士の皆様方の役割は、今後ますます多様化し、拡大していくものと考えます。要介護状態となっても高齢者の方々の尊厳を保持しながら、可能な限り住み慣れた地域で、自身の能力・機能を維持・回復し、自分らしく生きがいを持って最後まで生活することが求められており、作業療法士による県民一人ひとりに寄り添った、きめ細かな支援が欠かせません。

さらに、地域包括ケアに貢献できる作業療法の形を示すために開発した「生活行為向上マネジメント（MTDLP)」は、作業療法の対象者が「したい・する必要がある・することが期待されている生活行為」に焦点を当て、対象者と目標を共有し、対象者が自分の回復に積極的に関与できるように構成されているもので、その効果に大いに期待いたします。

地域包括ケアにおいて、係わる職種同士の「顔の見える・理解し合える関係づくり」が重要となります。地域によっては事情が様々異なるため、それぞれの地域のニーズに丁寧に対応し、家庭生活や社会生活の自立に向けて一人ひとりを支援していくには、多くの職種との切れ目のない連携・協力体制が必要となります。

すでに、貴職と看護職との連携・協働は、病院・施設などで行われておりますが、今後は、訪問看護ステーションにおいても、さらなる連携をお願いできればと思います。

末筆ではございますが、一般社団法人神奈川県作業療法士会のますますのご発展と、皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

神奈川県作業療法士会のロゴマークができました！

神奈川県作業療法士会 40 周年を記念し、これからも永続的に使用する「神奈川県作業療法士会のロゴマーク」が決定いたしました。

ロゴマークは「県の鳥カモメ」をモチーフに入れることを規定し、会員の皆様からご応募いただいた作品の中から厳正な審査により選定いたしました。どれも素敵な作品ばかりで決めるのがとても難しかったです。

今年は＜40 周年記念バージョン＞を使用し、県士会のホームページやニュース、SNS、臨床大会や研修会のチラシで活用いたしました。

今後は＜通常バージョン＞を使用していきます。これからの神奈川県作業療法士会を象徴するロゴマークとして、会員の皆様に末永く親しみ愛され活用していただけたらと思います。

＜40 周年記念バージョン＞

＜通常バージョン＞

神奈川県作業療法士会の歴史

神奈川県における作業療法士の職能団体の歴史について、日本の作業療法の歴史にも触れ以下に示します。また主要な出来事を表に示します。

１．日本の作業療法創成期　1966～1981

日本の作業療法の歴史は、1966 年（昭和 41 年）6 月に 22 名の国家資格を有する作業療法士が誕生したことから始まります。同時に日本作業療法士協会が発足し、会員数は 18 名でした。

神奈川県では、作業療法士会が未発足ながらも 1973 年には第 7 回日本作業療法学会が横浜市教育会館で開催されました。

２．神奈川県作業療法士会（KAOT）の創成期　1981～1990

神奈川県作業療法士会の発足は、日本作業療法士協会発足から 15 年後の 1981 年でした。初代会長として佐藤馨氏が就任し、会員数は 77 名でした。

1987 年には県内初の学術集会「第 1 回神奈川県作業療法学会」が開催されました。会員数は 1990 年の時点で 191 名となりました。

３．成長期　1991～2000

発足から 20 年となる 2000 年時点で会員数は 511 名にまで増え、職能団体として大きく成長した時期です。

４．飛躍期　2001～2010

2004 年に関内に事務所を設置し、2008 年には会員数も 1300 名を超えました。同年 12 月 4 日「一般社団法人神奈川県作業療法士会」が設立されました。これにより職能団体としてさらに発展しました。

この 10 年間に会員数は 636 名から約 1598 名と 2 倍以上に増加しました。

５．発展期　2011～2020

2011 年に学術誌「神奈川作業療法研究」を刊行しました。2014 年に世界作業療法士連盟(World Federation of Occupational Therapists, WFOT)主催による第 16 回世界作業療法士連盟大会・第 48 回日本作業療法学会が横浜で開催され、学術的にも神奈川県作業療法士会は成長しました。

また、同年にはそれまで会員が全員出席して実施していた定例総会を代議員総会に変更しました。

2017 年の時点で会員数は 2000 名を突破しました。

６．現在　2021～

本格的な公益法人格取得に向け積極的に活動しています。職能団体として神奈川県民に還元できるよう活動を継続しています。また組織の拡大に合わせエリア化構想の検討が進んでいます。

加えて、災害対策なども含め時代のニーズにこたえられる職能団体を目指して日夜成長しています。

神奈川県作業療法士会のあゆみ

1966	日本に国家資格を有する作業療法士が誕生 同時に日本作業療法士協会が発足
1973	第7回日本作業療法学会が神奈川県で開催される 学会長：小川恵子氏、会場：横浜市教育会館
1981	日本作業療法士協会が法人として認可される 神奈川県作業療法士会が設立される 初代会長：佐藤馨氏 77名の会員で組織され、会費は2000円
1983	2代目会長：長谷川元氏　就任
1985	第19回日本作業療法学会が神奈川県で開催された 学会長：佐藤馨氏　会場：厚木市文化会館
1987	会員数が125名となり会費を3000円に改訂した 第1回神奈川県作業療法学会が開催された 学会長：伊原幸枝氏　会場：神奈川県政総合センター
1991	神奈川県作業療法士会創立10周年
1993	会員数が262名となり会費を5000円に改訂した
2000	第34回日本作業療法学会が神奈川県で開催された 学会長：長谷川元氏　会場：神奈川県民ホール
2001	神奈川県作業療法士会創立20周年
2004	会員所属施設に仮設置していた事務局を関内に本設置した ホームページも一新して更新頻度やコンテンツが充実した
2005	会員数が848名となり会費を7000円に改訂した
2007	3代目会長：渡邊愼一氏　就任 4月に関連団体も招待し事務所開設式典を開催した
2008	12月4日　一般社団法人神奈川県作業療法士会設立 会員数が1300名を超えた
2011	神奈川県作業療法士会創立30周年 東北地方太平洋沖地震の影響で神奈川県作業療法学会を中止 念願の学術誌「神奈川作業療法研究」を刊行
2012	第1回神奈川県臨床作業療法大会　開催 この年より神奈川県作業療法学会と神奈川県臨床作業療法大会を毎年交互に開催することとした
2013	会費納入が銀行口座引き落としへ
2014	世界作業療法士連盟(World Federation of Occupational Therapists, WFOT)主催 第16回世界作業療法士連盟大会・第48回日本作業療法学会が横浜で開催 会員数増加に伴い定例総会を代議員総会に変更した
2017	会員数が2000名を超える
2015	4代目会長：錠内広之氏　就任
2021	5代目会長：神保武則氏　就任 神奈川県作業療法士会創立40周年を迎える

まとめ

１．組織として

会員数は発足 77 名より約 2500 名となり大規模化しました。関内に事務所が設置され、一般社団法人化を経て、現在は公益法人格所得を目指し、組織としての体系化が進んでいます。

総会も代議員制となっています。

２．学術団体として

1973 年の第 7 回日本作業療法学会を皮切りに、1987 年の第 1 回神奈川県作業療法学会、2000 年の第 34 回日本作業療法学会、2014 年の第 16 回世界作業療法士連盟大会・第 48 回日本作業療法学会などの学術集会を開催してきました。

また、会員の増加に合わせ、神奈川県作業療法学会と神奈川県臨床作業療法大会を毎年交互に開催することとし、会員の発表ならびに研鑽の場を確保してきました。

2011 年には学術誌「神奈川作業療法研究」が刊行され学術団体としての質が担保された形となりました。

３．神奈川県と神奈川県民に対して

各福祉・医療施設等で貢献できる力と質の向上を目指し、団体として研鑽するともに、公益法人格取得を目指し、県民公開講座など一般県民向けのサービス提供も行っています。

神奈川県作業療法士会の今を知る

作業療法士の質向上に向けた新たな研修会の取り組みと学術誌「神奈川作業療法研究」の変遷

学術部　理事　佐々木秀一

学術部のスキルアップ研修事業班は、会員間の臨床専門領域における知識・技術の向上を目的として、毎年6回以上の研修を企画運営しています。2007年以前は生涯教育講座として実習指導者養成講座や、分野別講習会として身体障害や精神障害の研修を開催し、対面形式の研修会では100名近い参加者となる企画もありました。2008年から現在までは、スキルアップ研修会いう名称で、身体障害、精神障害、発達障害という領域別にとどまらず、組織づくりやキャリアデザイン、臨床研究法など、様々な企画を開催してきました。また、2014年から当会の新入会員向けに「明日の臨床ですぐに実践できる！」という研修を学術部が企画し、その後に参加者と各理事・役員との交流や新入会員同士の交流を福利部と合同で企画し、神奈川県内のベテランと若手OTが繋がる機会を設けることができました。

ここ数年はコロナ感染症の影響を受け、対面形式での研修会は企画できなくなっています。その代わりzoomを使ったオンラインでの研修会が主流となり、結果的に経費の削減と遠隔や自宅からも容易な参加が実現できることで、今年度は年間15回の研修会の企画を予定することができました。そのことで、少人数の参加者が見込まれても作業療法にとって、とても重要な分野の企画運営が可能となりました。また、オンラインでの利点である「いつでもどこでも誰とでも繋がれる」を活かし、日本で著名な講師の講演が企画でき、全国の作業療法士からも多く参加を募集することが可能となりました。研修の中ではzoom機能のブレイクアウトルームを使って、グループ討議も実施でき日本全国の OT との交流ができる機会となりました。

スキルアップ研修会では、会員の方からさまざまな分野でのアイディアを頂戴し、多く要望に応えたいと考えています。引き続き会員に有益な研修会の企画を行っていきたいと考えています。

また、本士会が発刊する学術誌「神奈川作業療法研究」は2011年に初巻が刊行され、当時の学術部担当理事は（故）中西浩司氏（北里大学東病院）、初代編集班長は東登志夫氏（現長崎大学）が中心となり創設されました。2012年の第2巻の巻頭言で中西氏は本誌の目的を、「学術誌は県士会の看板であり、学術誌としての体裁は整えるのは勿論､知見の共有とともに若手の育成となる教育機会の提供｣と述べています。本誌は創刊時点において、国立国会図書館が取り扱っている ISSN（国際標準逐次刊行物番号）を取得し、医中誌WEB版への登録など学術誌としての質を確保しました。掲載内容は学術的および専門的で原著論文を含み、自由投稿の論文であり、査読者によって質が保証されていました。また、本誌の最大の特徴である教育的な査読の機会を得る目的で、「論文執筆支援制度」という教育機会を創設時から設け、現在でも継続し、多くの会員に利用していただいています。2013年からは2代目編集班長の友利幸之助氏（現東京工科大学）、3代目編集班長の白濱勲二氏（神奈川県立保健福祉大学）は2018年まで引き継がれ、年1回の刊行事業が着実に行われてきました。2019年からは4代目編集班長の幅田智也氏（北里大学）が、英語でのabstract導入、論文種別「実践ノート」を採用、臨床での有益な知見を教育的な側面も含め多く集めることができました。2021年からは5代目編集班長の鈴木久義氏（昭和大学）に交代し、2022年に本誌の投稿から発行までの体制を従来の紙ベースからすべてオンライン化に移行しました。科学技術情報発信・流通総合システムの J-STAGE を採用し、電子媒体（PDF 形式）による掲載とすることで、論文の速報性を高めることが可能となりました。また、本誌の各論文についてはオープンアクセス、つまり会員・非会員問わず誰でも無料で閲覧が可能となり、当会の学術研究活動の成果を国内外に対して早期に発信が可能となり、公益性の高い事業へと変化しています。また、研究倫理委員会（仮称）の設置に向けても準備を進めており、研究を開始する際の倫理的審査を受けられる整備をしています。会員には、日頃の研究成果や臨床知見を本誌に多く報告していただきたいと考えており、身近で寄り添える存在として今後も発展してまいります。

地域包括支援システムに関して

地域包括ケアシステム推進委員会　理事　西川航平

この度、一般社団法人神奈川県作業療法士会が設立40周年を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。また、本会が県民と県士会員に対し知識の普及や学術的事業を通じ、医療福祉の充実に寄与されてきましたことに、深く敬意を表します。

さて、私が本会で担当させて頂いております地域包括ケアシステム推進委員会は2016年より発足した比較的新しい委員会です。発足の経緯は当時改正された「新しい介護予防」に加えられた「地域リハビリテーション活動支援事業」を県内行政より委託される形で始まりました。この基礎には歴代の役員、理事をはじめ多くの先輩方が積み重ねてきた人脈と各方面からの信頼があります。改めて感謝申し上げます。7年目を迎えた現在でも「地域リハビリテーション活動支援事業」は継続しています。昨今の新型コロナウィルスの猛威が市民の活動を制限させる中にあっても、行政と連携し自分らしい充実した生活が送れる地域を目指すべく県民・市民に近いところで健康に寄与する作業療法を展開しています。少しずつではありますが、その効果も実感できるほどになってきました。

「地域へ」という言葉が出て久しいですが、まだまだ地域での作業療法士の可能性は大いにあると私は思っています。作業療法士が地域へ積極的に出ることでその必要性が認識され、地域共生社会の中で役割を果たすには本会が果たす役割は重要です。その舵取りに大きく期待しており、私もそこへ寄与できればと思っております。

最後になりましたが、本会が40周年という節目にさらなるご発展が遂げられますことを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

認知症対策委員会の活動について

認知症対策委員会　理事　望月強併

神奈川県作業療法士会では、2015年度から特設委員会として認知症対策委員会が設置されました。
元々は、高齢化社会となり認知症者の増加している情勢から、作業療法士の疾患への対応力の向上を目指し、作業療法士協会から「認知症アップデート研修」を各士会での開催を依頼され、委員会が設置されました。設置の始まりは、研修会の運営というところがありましたが、認知症関連の地域事業や家族会などへの参画も作業療法士として必要な事業と考え、行政や関連団体への協力・連携へも取り組む委員会として組織されました。

研修会事業として、作業療法士協会からの「認知症アップデート研修」を継続的に行い、認知症に対する基礎の知識の研修会を行い、今年度は、認知症者に対する作業療法の展開として、症例に対する、臨床思考過程の研修会も行おうと考えています。

地域事業としては、「認知症の人と家族の会神奈川支部」や県西部で行われている「認知症をにんちしよう会」への参画し、部員の派遣を行っていました。現在は2020年からの新型コロナウイルス感染症の影響や部員数の減少により、地域事業へは部員の派遣は出来ていませんが、今後は各地域で行われている事業に参画できればと考えています。

エリア化推進に向けた取り組み

エリア化推進委員会　理事　大郷和成

2019 年度から神奈川県作業療法士会は「エリア化推進委員会」を発足し、作業療法士（OT）と県内の生活エリアにある関係機関等が連携し、地域住民のより良い生活・人生に向けた支援の実現化を目指しています。全国の士会が支部化やブロック化を進めている中、神奈川県作業療法士会では「エリア化」という言葉を選択致しました。これは、1 つの組織を分断するような支部ブロック体制ではなく、互いのエリア同士の協力体制を軸とし、地域の声に対応しやすいエリア体制を築くことが、理想的且つ重要な地域に貢献できる一つであると考え、「エリア化」という表現に至りました。

エリア化では将来的に、①行政の窓口を確保、②県民への作業療法の啓発、③県士会公益事業の協力体制、④人材の発掘および育成、⑤会員ネットワークの構築、⑥参加しやすい県士会づくり、という 6 つの役割を担っていきたいと考えています。エリア化実現に向けて、まずは会員同士が気軽に集える場が必要と考え、2020 年度よりテーマで集える OT コネクトミーティングを継続して行っています。県士会活動への参加障壁を少なくしたいと考え、個人の興味関心に合わせて気軽に参加できるよう、テーマ別での場づくりを進めています。

エリア化を形にしていくためには、県士会事業の効率化に向けてトップダウンで進めていくことと、会員主体による地域貢献活動推進に向けてボトムアップで進めていくことの両側面が必要であると実感しております。一方的な押し付けにならないよう、会員の皆様の声をいただきながら進めていきたいと考えています。

公益法人化に関して

公益法人化対策委員会　理事　澤口　勇

神奈川県作業療法士会は 1981（昭和 56）年に発足。地域の保健・医療・福祉の向上など、主に各会員が所属する医療施設を中心に会員の自己研鑽などを通して寄与してきました。その後時代は高齢化社会へ。2000（平成 12）年に介護保険がスタート。共生社会の到来が予想され、作業療法は従来の施設中心のケアから地域社会へかつ職能団体としても直接ケアに寄与するシフトチェンジの必要に迫られていました。当会として法人化へ向けた議論が始まったのもちょうどその頃でした。

現行の新法人制度の施行は 2008（平成 20）年 12 月。団体として法人格がまだなかった当会はまず初めに翌年 2009（平成 21）年 4 月、一般社団法人設立から臨むことになります。そして現在、大変微力ながらも公益法人化へ向けた準備作業として「公的目的事業」をパイロット的に当委員会主催にて施行、公益目的事業の実績を積み重ねているところです。今後は参加された市民からのアンケート結果などを元に「当会における公益目的事業の在り方や指針」の作成に着手。それらを基に公益目的 23 事業の中から当会が担うべき公益目的事業を選択していきます。その先はどうか。定款の変更案の検討に入り、並行して会計基準を一般法人から公益法人へ変更する作業、そしてそれらを県所管にご指導を頂きながら公益法人設立へ向けた準備作業に入っていきます。

当委員会の仕事は盛り沢山ですが、将来、公益法人格の認定を受けてからこそが本番と考えています。行政はじめ各職能団体や市民の皆様、今後もご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

神奈川県作業療法士会ウェブサイトの発展

ウェブサイト管理委員会　理事　佐藤範明

ウェブサイト管理委員会は、2005 年 4 月にインターネットと作業療法をつなぐ目的で誕生し、2022 年で 18 年目を迎えます。開設した 2005 年当時は急速にインターネットが普及した時期であり、神奈川県作業療法士会は世間の情勢に合致したタイミングでインターネットによる広報活動を開始してきました。

「みて役立つ！すぐ役立つ！まずはクリック！県士会サイト」のキャッチフレーズのもと、県士会サイトを、いつでも・だれでも・どこでも県士会情報や作業療法に関連する情報を閲覧できる県士会データベースとして整備を進めてきました。また、県士会サイトは外部業者に頼ることなく一から始め、今までも素人の委員による知識と技術で運営を担ってきたことが特色であり、誇らしい実績であると自負しています。これも開設当初から携わっている作田前理事をはじめ、今日までの委員の皆様の支えの賜物です。

昨今の SNS をはじめとする世間のメディアツールが変化する中、様々な媒体を活用し、文字・画像から動画へと広報戦略を変化させてきました。現在では、「絵本でみる作業療法」や「作業療法の魅力を語る」のコンテンツは、絵本や動画などの新たなメディアを活用し、有効なツールとして捉え、県士会員のみならず、県民へのコミュニケーションの架け橋になることを期待しています。

今後も更なるウェブサイトの発展に向けて検討を重ねて参ります。また、今後の神奈川県作業療法士会の一層の発展を祈願しています。

災害対策の発展に向けて

制度対策部　理事　野本義則

神奈川県作業療法士会（以下、県士会）の災害対策は、制度対策部の災害対策班がその役を担っています。県士会が行う災害時の対応では、日本作業療法士協会（以下、OT 協会）や JRAT などとの連携が円滑に行われることが重要です。県士会ではこれらの団体との円滑な連絡および連携が可能となるように、平時から体制を検討し、確立しています。特に災害時には情報が錯綜することもしばしばです。県士会では、例えば「災害ボランティアの募集」といった情報について、WEB サイトなどを活用して、信頼できるものを速やかに県士会員に発信できる体制を整えています。

神奈川県が被災した場合では、県士会員を支援するためにも、速やかな県士会機能の回復が望まれます。県士会では、2020 年に「災害対策本部規定」を策定し、災害時における理事役員の安否確認と県士会機能維持のためのマニュアルを作成しました。以降、そのシミュレーションを実施し、災害時にも速やかに機能できる体制の確立を目指しています。

被災した会員を支援するためには、その情報収集が不可欠です。県士会では 2016 年から県士会員災害時安否確認システム運用の訓練を毎年行っています。2019 年東日本台風における初の本稼働では、円滑な運用により県士会員の職場やご自宅の被災状況を捉えることができました。今後もより実効的なシステムの構築を目指します。

また、2020 年には「大規模災害時会費免除規程」を制定するなど、県士会員が罹災した時の経済的な負担を軽減する取り組みも行っています。

さらに、他職種や一般市民に対して災害時の OT の役割を啓発する活動も県士会広報部と共に行っています。2018 年には、神奈川県が主体として行う大規模災害発生時の実践的訓練である「ビッグレスキューかながわ」に参加し、避難所での環境整備や生活上の工夫等 OT の視点を活かした取り組み実践などを紹介しました。

今後も様々な災害時に県士会ができることを会員の皆さんと共に創り続けていきたいと考えます。

会員の声

会員　佐藤病院　岩居洋輝

現在、臨床業務にあたりながら、神奈川県作業療法士協会広報部員、第5回神奈川県臨床作業療法大会広報委員の業務に従事しております。臨床経験は5年目ですが、実際の現場の作業療法に触れ、多くの課題と向き合う中で、自分の興味や今後のビジョンが徐々に明確になりつつあります。

県士会の業務にあたる中で、神奈川県の作業療法の動向やトピックに触れ、新しく院外の作業療法士との繋がりを持ちました。目前の患者様を如何に支援するか悩む日々ですが、少し外の様子を見ることで介入の手助けを得ています。院内では知りえない作業療法士の新しい職域や可能性を学び、知見を広げるきっかけにもなっています。未だ対面での議論は制限されますが、自由に話し合える時が来ることを楽しみにしております。

若手の作業療法士が思う課題として、県士会のメリットを十分に活かせているかという疑問があります。作業療法士は卒後も生涯勉強が必要な職種です。日々の研鑽を個人に任せるだけではなく、組織全体で卒後教育の支援体制や作業療法の魅力を周知する環境を作ることが必要です。職能団体は直接的な個人の恩恵より職種の発展と地位向上のためですが、最終的には個人にかえるものです。県士会員でよかったと思える経験が、個人の成長、延いては県内の作業療法の発展に繋がるのではないでしょうか。新たな作業療法の可能性を探り、繋がりを広げることで組織の発展に寄与できればと思います。

会員　介護老人保健施設 めぐみの里　梶原聖史

神奈川県作業療法士会40周年おめでとうございます。

県士会とのつながりは入会時の歓迎会、新人教育プログラム(現 現職者共通研修)です。昨年、ご縁があり第18回神奈川県作業療法学会のお手伝いをした際に県士会と密接に関わることができました。感染症流行の中、学会を会場運営かWeb開催かを判断するために学会実行委員の皆様はもちろんのこと、県士会の方々にもご意見を頂きながら柔軟に進んでいたのをとても心強く感じました。それはOTの仲間として、互いに尊重し合い、信頼し合っている姿を目の当たりにしたことです。刺激を受ける日々、頼れる仲間がいることを知り委員の仕事に取り組むことが出来ました。

また、個人的な話ですが学会運営委員の活動でウェブサイト管理委員会とも連携し、Web上での情報提供のお願いをしました。HP上への情報の更新・掲示も迅速かつ丁寧で、皆様県士会以外の仕事もしながら行っていることに感謝の念を禁じえません。情報が素早く、見やすいことは現在のネット社会では必要な条件だと考えます。

感染症流行により様々な行動に制限がついている今、県士会のような柔軟で革新的な運営はこれからの変化が大きい社会におかれましては、これまでの伝統を大切にしながらも変わりゆく時代に沿った県士会であって欲しいと思います。

最後に、日頃のご活動に厚く御礼申しあげますとともに、今後ますますのご健勝と県士会のご隆盛をお祈りいたします。

会員　横浜市立大学附属市民総合医療センター　坂本安令

神奈川県作業療法士会設立40周年おめでとうございます。このような寄稿を書くような立場とは考えてはいないので、いささか恐縮の思いを強くしております。

私は昭和60年（1985年）に地方の短期大学を卒業し、神奈川へ就職しました。たまたま最初の就職試験で今の職場に合格。3年ほどしたら実家に戻るつもりが今に至っています。

神奈川県士会との関わりは就職した年に第19回日本作業療法学会が神奈川で開催（学会長：佐藤　馨氏）され、先輩方と学会の手伝いをしたのが最初であったと記憶しています。その後何故か学会には縁があり2000年の第34回日本作業療法学会が神奈川で開催（学会長　長谷川　元　氏）された時は実行委員長として関わる機会がありました。今でこそ発表演題の審査や発表演題の割り振りなどはWeb上で行われますが、当時はアナログそのもの。携わった方は記憶にあると思いますが、たしか某リハビリテーション病院の1室で、床に採用された演題の抄録用紙を広げ、手作業で分類をしていました。今となっては懐かしい思い出です。

神奈川県士会の理事は皆さん、フットワークがいい意味で軽いのが特徴かと思っています。また様々な機関や人とのネットワークが強く、一県士会会員としても非常に心強く感じています。

今後ますます県士会の役割は重要になると思います。今のコロナ禍においては会員への様々な支援、卒後教育の充実など、様々な課題を認識しているかと思います。会員一人ひとりが県士会の内から、外から多様な協力ができる開かれた組織として発展していくことを切に願います。

神奈川県作業療法士会の未来

事務局長　吉本雅一

僭越ではございますが一般社団法人神奈川県作業療法士会(以下、当会)を代表して執筆させていただきます。

2019 年から 4 か年計画として『地域に密着した作業療法を一人ひとりの作業療法士が実行しよう！』のスローガンのもとに、神奈川県民に対して質の高い作業療法を提供するため、会員の知識・技術向上を図ることは素より、国や県・市町村と協力して、地域に密着した作業療法が展開出来るように、組織強化と整備を行うことを目的として事業を行ってきました。具体的には『学術活動』『教育』『地域支援活動』『作業療法啓発活動』『会員の交流・福利の充実』『自治体・関連団体の連携協業』『日本作業療法士協会(以下、協会)との連携協業』など、多岐多様な事業を展開してきました。しかし、2019 年度の後半に発生した新型コロナウィルス感染症の蔓延と感染対策の政策である緊急事態宣言やまん延防止等重点措置法の発令に伴い、多くの事業の見直しや変更を余儀なくされました。この大きな苦難を経験しながらも、当会は今後も様々なニーズやホープに応えるために、『成長する神奈川県作業療法士会』をキーワードとして、未来の作業療法士達へ向けた神奈川県の土台を築くため、「会員の知識・技術向上」「組織強化と整備」「地域に密着した作業療法展開」を実行し続けていきます。長期計画に則って具体的には下記を進めます。

(1) 学術基盤の強化・整備
ア) オンライン併用の「研修会マニュアル」・「学会マニュアル」環境整備
イ)「会計マニュアル」整備・見直し
ウ) 会員に向けた“知識・技術・応用力”研鑽および推進
(2) 県士会事業に占める公益事業への取り組み拡大
ア) 公益事業の具体化
イ) 行政窓口の把握
(3) 神奈川県エリア化の本格導入に向けた取り組み拡大
ア) 地域作業療法の枠組み構築
イ) 会員の集いや繋がり構築
(4) 法人管理の充実と整備
ア) 事務局員の業務整理
イ) 会員登録の推進と管理体制強化

これからのキーワードとして(1)With コロナの法人運用、(2)法人運営基盤の強化(事務部門強化、規約規程の整備、公益活動)、(3)会員の情報把握と士会員＝協会員の実現、(4)学術教育の充実と専門性の向上、(5)地域共生社会実現に向けた専門職としての役割遂行(地域から必要とされる)、(6)未来の作業療法士の成り手への啓発、(7)作業療法の必要性の啓発が挙げられます。

新型コロナウィルス感染症と向き合いながら、IT 技術を上手に活用し、会員が繋がり学び支え合える活動を進めていきます。オンラインシステムを活用した研修会、学会、各種イベントの開催を継続しながらも、対面での開催や会員交流の機会を活発に行っていくことが望まれます。また協会と密接に連携し、会員の資質・専門性の向上と組織力強化を図っていきます。地域共生社会の構築のため私たちの専門性が必要とされています。各地域の会員の活動を共有し、様々な人々と繋がり共生していく社会の構築に有機的に関わることが大切でしょう。

また未来の作業療法士へ魅力的な職業として確立していくことが重要です。私たちの先輩が脈々と続けてきた『作業を通して人をみる』こと、これからも『作業を通して人々を元気にしていく』を続けていくことが原点であり未来でもあると思います。人々の生活は『作業の連続』で成り立っています。その作業に関わるスペシャリストとして、これからも大いにこの社会で活躍貢献していくことでしょう。みなさんの力がこれからも社会に必要とされていきます。

一般社団法人　神奈川県作業療法士会　白書

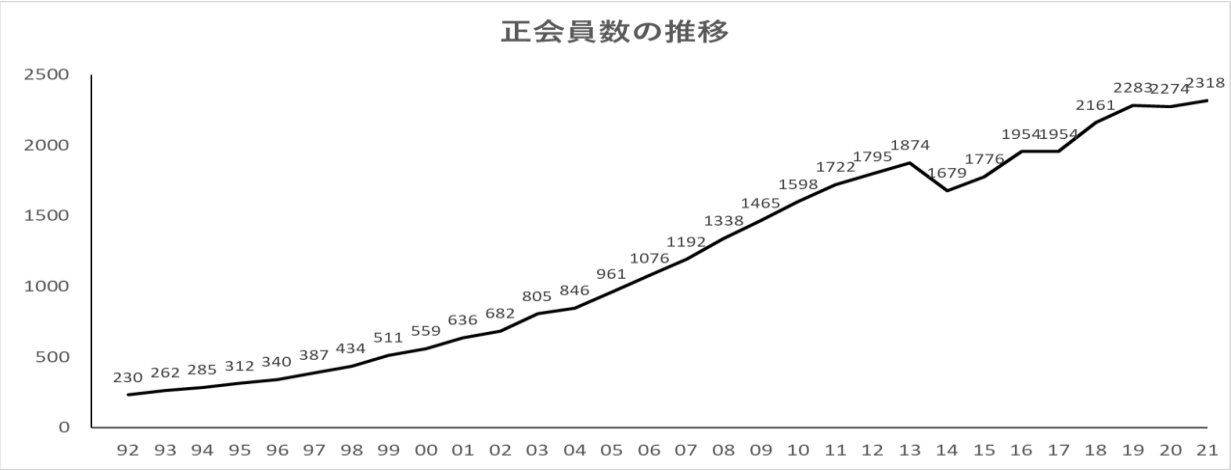
１．会員について

1. 会員種別
　正会員、賛助会員、名誉会員

2. 会員数と推移　2022 年 3 月 31 日現在

正会員数	2,318 名
施設会員(常勤)	2,128 名
自宅会員(非常勤・その他)	190 名
休会会員	12 名

3. 正会員数の推移



4. 賛助会員　　2022 年 3 月 31 日現在
株式会社　柴橋商会
株式会社　gene
有限会社　足柄リハビリテーションサービス
昭和大学保健医療学部
「進」リハの集い
田坂　麻紀子　氏

5. 名誉会員
田中　節子　氏

6. 認定作業療法士・専門作業療法士数 2022 年 9 月 1 日現在

認定作業療法士	72 名
専門作業療法士「高次脳機能障害」	2 名
専門作業療法士「手外科」	2 名
専門作業療法士「特別支援教育」	1 名
専門作業療法士「福祉用具」	1 名
専門作業療法士「訪問作業療法」	1 名

２．学会開催歴

神奈川県作業療法学会

回	開催年月日	テーマ	学会長	会　場
第1回	1987年3月7日	なし	伊原幸枝	神奈川県政総合センター
第2回	1989年3月4日	なし	土嶋政宏	七沢脳血管センター
第3回	1991年3月2日	なし	田中節子	神奈川県政総合センター
第4回	1993年3月6日	高齢者の精神機能	松本順子	聖マリアンナ医科大学病院
第5回	1995年4月8日	地域生活と作業療法 ～生活形態の多様性に添って～	土岐玲子	横須賀市産業交流プラザ
第6回	1997年4月12日	作業療法との出会い ～個々の経験を通して～	菅井京子	小田原市民会館
第7回	1936年4月10日	癒しを未来に繋ぐ ～作業活動の目指す治療と支援～	池ノ谷眞理	川崎市高津市民館
第8回	2001年4月14日	21世紀の作業療法 ～生活の援助者として～	小越信子	横浜リハビリテーション専門学校
第9回	2003年4月19日	共に築く作業用法をめざして	三宅久子	横浜リハビリテーション専門学校
第10回	2005年4月24日	作業療法を考える～(O)おもしろ (T)たのしく(R)レボリューション	長雄眞一郎	神奈川県立保健福祉大学
第11回	2007年4月21日	合添う～寄り添い合う	岡村宮子	川崎市産業振興会館
第12回	2009年4月19日	明日への架け橋 ～作業療法の挑戦～	山口芳文	昭和大学横浜キャンパス
第13回(震災のため中止)	2011年4月17日	リハビリでMOTTOつながる心と手～人と生活をよくする作業療法～	淺井憲義	北里大学相模原キャンパス
第14回	2013年4月21日	つなげよう過去から未来へ ～作業療法の挑戦～	菅原洋子	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部
第15回	2015年4月19日	原点回帰～作業療法の面白さを知ろう・伝えよう～	水島眞由美	横浜リハビリテーション専門学校
第16回	2017年7月2日	選択する未来	玉垣　勉	神奈川県立保健福祉大学
第17回	2019年7月21日	新たな作業療法時代へ ～Change＆Challenge～	野々垣睦美	メルパルク横浜
第18回	2021年12月4日～5日	多様性に向き合う作業療法	松田哲也	WEB開催

神奈川県臨床作業療法大会

回	開催年月日	テーマ	学会長	会　場
第1回	2012年4月15日		鴻井健三	神奈川県立保健福祉大学
第2回	2016年8月7日	作業療法のしてん ～視点・支点・始点～	遠藤陵晃	藤沢市民会館
第3回	2018年7月29日	輝く未来を創る	三浦美紀	はまぎんホール
第4回（コロナの為中止）	2020年12月12日	TRY WITH ～作業を必要とするすべての人と共に～	錠内広之	関内新井ホール
第5回	2022年12月11日	共生社会と作業療法	神保武則	WEB開催

神奈川県内開催全国学会

学会名	会　期	学会長	会　場
第７回日本作業療法学会	1973年5月10日～12日	小川恵子	横浜市教育会館
第19回日本作業療法学会	1985年6月13日～14日	佐藤　馨	厚木市文化会館
第34回日本作業療法学会	2000年５月25日～27日	長谷川元	神奈川県民センター
第16回世界作業療法士連盟大会 第48回日本作業療法学会 ＊合同開催	2014年6月18日～21日	中村春樹 渡邉慎一	パシフィコ横浜

３．表彰受賞者

2012年表彰者

表彰名	氏　名	所　属
神奈川県保健衛生表彰	田中　節子	

2015年表彰者

表彰名	氏　名	所　属
日本作業療法士協会特別表彰	渡邊　愼一	横浜市総合リハビリテーションセンター
神奈川県保健衛生表彰	浅井　憲義	

2016年表彰者

表彰名	氏　名	所　属
日本作業療法士協会特別表彰	鶴見　隆彦	湘南医療大学

2018年表彰者

表彰名	氏　名	所　属
日本作業療法士協会特別表彰	杉本　由美子	NPO法人重度身体障害者と共に歩む会
神奈川県作業療法士会特別功労表彰	田中　節子	自宅会員
神奈川県作業療法士会特別功労表彰	土岐　玲子	自宅会員
神奈川県作業療法士会特別功労表彰	鶴見　隆彦	湘南医療大学
神奈川県作業療法士会功労表彰	三宅　久子	自宅会員
神奈川県作業療法士会功労表彰	菅井　京子	医療法人清輝会　国府津病院
神奈川県作業療法士会功労表彰	中村　光枝	自宅会員
神奈川県作業療法士会功労表彰	畠中　佳代子	藤沢市民病院
神奈川県作業療法士会功労表彰	原沢　祐子	県立精神医療センター芹香病院

2019年表彰者

表彰名	氏　名	所　属
特別功労表彰	佐藤　馨	自宅会員
特別功労表彰	淺井　憲義	自宅会員
功労表彰	松葉　正子	自宅会員
功労表彰	森田　千晶	神奈川県立保健福祉大学
功労表彰	渡邊　愼一	横浜市総合リハビリテーションセンター
功労表彰	玉垣　努	神奈川県立保健福祉大学
功労表彰	原　伸一	県立こども医療センター
功労表彰	坂本　啓夫	横浜YMCA学院専門学校
功労表彰	高橋　真須美	東海大学医学部附属病院

2020年表彰者

表彰名	氏　名	所　属
功労表彰	大竹　雅子	横浜市総合リハビリテーションセンター
功労表彰	作田　浩行	昭和大学保健医療学部
功労表彰	鈴木　久義	昭和大学保健医療学部
功労表彰	眞柄　正隆	けやきの森病院
功労表彰	内田　亜紀	横浜市総合リハビリテーションセンター
功労表彰	小野　学	神奈川リハビリテーション病院
功労表彰	三川　年正	湘南医療大学
功労表彰	山根　剛	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

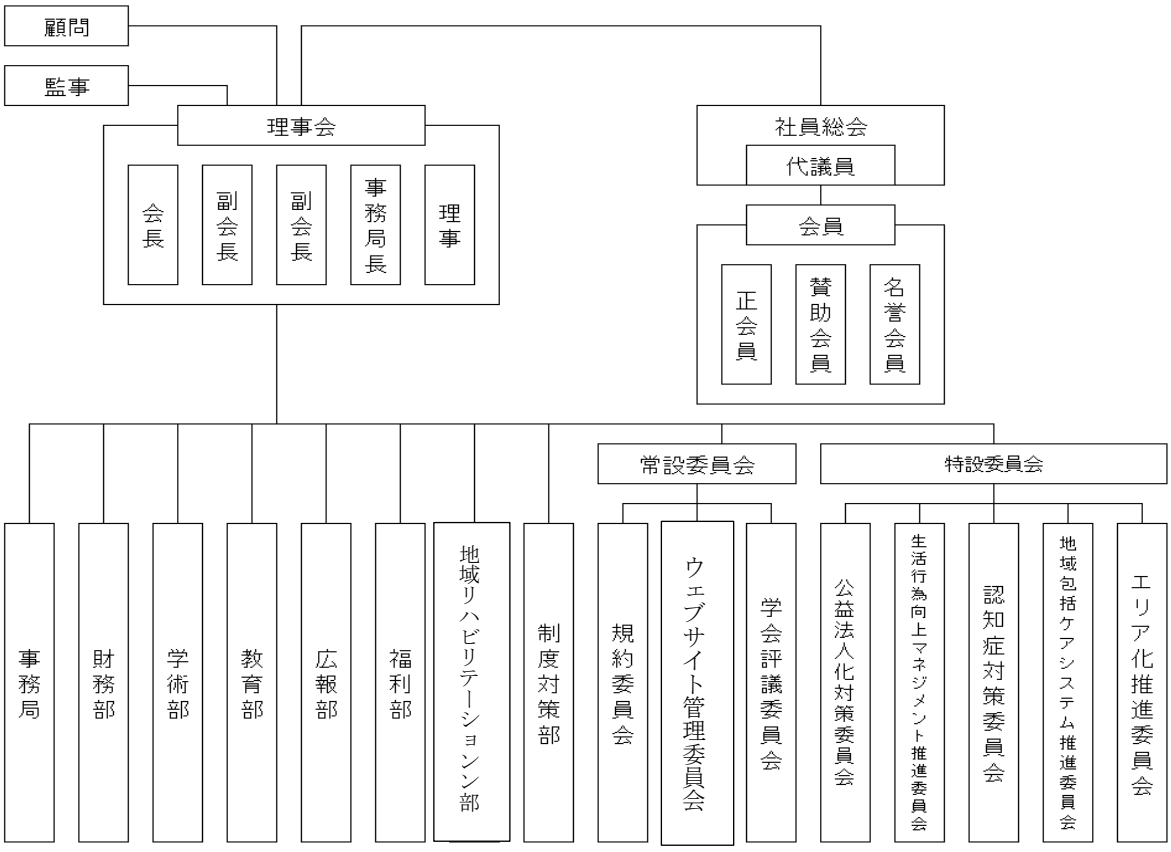
2021年表彰者

表彰名	氏　名	所　属
功労表彰	石井　政江	ティー・エイチ・ピーメディカルクリニック
功労表彰	鳥家　朋子	自宅会員
功労表彰	山崎　文子	横浜市総合リハビリテーションセンター
功労表彰	北島　智恵子	藤沢病院
功労表彰	中西　理佐子	横浜南共済病院
功労表彰	杉山　いずみ	鎌倉療育医療センター小さき花の園
功労表彰	城下　絵里香	神奈川県立精神医療センター
功労表彰	三田　美貴	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

2022年表彰者

表彰名	氏　名	所　属
功労表彰	安部　剛央	津久井浜整形外科クリニック
功労表彰	笹森　郁子	横浜いずみ介護老人保健施設
功労表彰	島崎　容子	東海大学医学部付属病院
功労表彰	田中　桃枝	横浜市総合リハビリテーションセンター
功労表彰	長谷　里恵	横浜リハビリテーション専門学校

４．一般社団法人　神奈川県作業療法士会　組織図



（2022 年 3 月 31 日現在）＊選挙管理委員会は理事会において承認されている

５．神奈川県内　作業療法士養成校一覧(2022 年 3 月 31 日現在)

○北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
　〒252-0373　相模原市南区北里 1-15-1
○昭和大学保健医療学部作業療法学科
　〒226-8555　横浜市緑区十日市場町 1865
○茅ヶ崎リハビリテーション専門学校作業療法学科
　〒253-0061　茅ヶ崎市南湖 1-6-11
○横浜リハビリテーション専門学校作業療法学科
　〒244-0801　横浜市戸塚区品濃町 550-1
○横浜 YMCA 学院専門学校作業療法科
　〒231-8458　横浜市中区常盤町 1-7
○神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
　〒238-8522　横須賀市平成町 1-10-1
○国際医療福祉大学小田原保健医療学部作業療法学科
　〒250-8588　小田原市城山 1-2-25
○湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
　〒244-0806　横浜市戸塚区上品濃 16-48

あとがき

40 周年記念事業プロジェクトリーダー
神奈川県作業療法士会副会長　田中ゆかり

県士会組織が新体制になった 2021 年、神奈川県作業療法士会は 40 周年を迎えました。コロナ禍で対面での会議や研修会ができなくなって 1 年経ち、WEB 上でしか皆さんと会えず、私たち県士会員同士のつながりがなんとなく希薄に感じる頃でした。今できる方法で県士会員や県民の皆様と一緒に 40 周年を振り返り、次の時代に向けた第一歩になるような事業をしようという思いから、理事の有志とプロジェクトチームを立ち上げました。

記念誌の制作もその一環であり、一人でも多くの方に神奈川県の作業療法を知っていただく機会になればと、編集委員の皆様のご努力で、このような素晴らしい記念誌が出来上がりました。ページをめくると歴代会長をはじめ、お付き合いさせて頂いている団体の皆様からのお祝い、また、理事や会員からの県士会に対する思いに触れることができます。私自身も本誌を読みながら、40 周年に立ち会えたことを誇らしく思うと同時に、県士会での活動を振り返り、様々な出会いを思い出し、これからも皆さんとつながり、創っていく未来の県士会に思いを馳せております。神奈川県作業療法士会はこれまで積み上げてきた歴史を土台に、これから先 10 年 20 年と続き、ちょうど私が後期高齢者になる頃にはきっと、県民の誰もが日々の暮らしや活動の中で、「作業療法」を身近に感じられる組織に成長していることでしょう。

最後になりましたが、編集委員の皆様、日々の臨床や業務、士会活動でお忙しい中、企画段階から完成まで長きにわたり携わっていただきありがとうございました。また、本誌作成にあたり、快く原稿をお引受けいただきました関連団体代表の皆様、歴代会長、理事、会員の皆々様、本当にありがとうございました。

この記念誌を通して県民の皆様と少しでもつながることができれば幸いです。

一般社団法人神奈川県作業療法士会設立 40 周年記念誌

発　　行　　2022 年 10 月 1 日
発行責任者　　一般社団法人神奈川県作業療法士会会長　神保武則
編集責任　　奥原孝幸（神奈川県立保健福祉大学）
編集委員会　　石井有希（横浜リハビリテーション専門学校）　作田浩行（昭和大学）
出口弦舞（国際医療福祉大学）　渡邊愛記（北里大学）
田中ゆかり（藤沢市保健医療センター）　吉本雅一（湘南鎌倉総合病院）
玖島弘規（横浜旭中央総合病院）　野本義則（東京医療学院大学）
野々垣睦美（クラブハウスすてっぷなな）
印　　刷　　文明堂印刷株式会社
事務局　　神奈川県横浜市中区太田町 4 - 45 第一国際ビル 301 号
TEL・FAX　045 - 663 - 5997
ウェブサイト　https://kana-ot.jp 「作業療法　神奈川」で検索